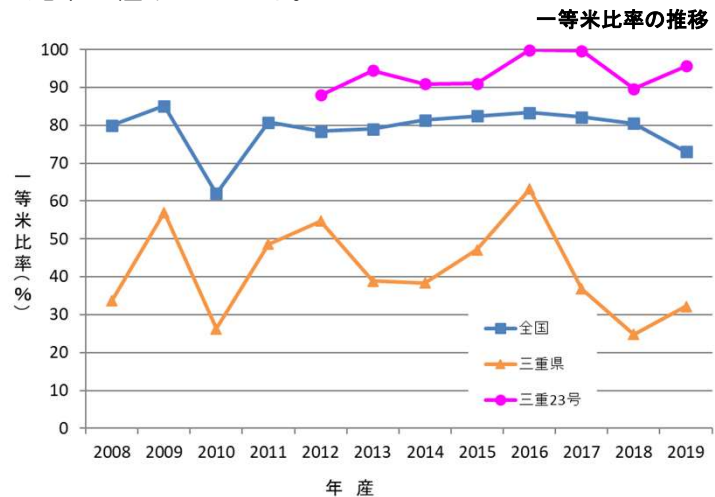


米（夏の暑さに強い新しい米「結びの神」）

ヒアリング結果

【三重県農業研究所】

- 夏季の高温で県内の一等米の比率が低下している。
- 高温対策として新品種（三重23号）を開発した。
- 三重23号の作付け面積、生産量は順調に伸びている。
- 三重23号は「結びの神」のブランド名で販売されている。



米（夏の暑さに強い新しい米「結びの神」）

ヒアリング結果

【生産者】

- 夏季の高温でコシヒカリの生産に影響が出ている。
- 三重23号は高温に強く、食味も良い。強い風にも倒れにくい。
- 今後の気温上昇に備えて、さらなる品種改良を期待している。

冷めても美味しいぞ。
おにぎりにピッタリ
じゃ。



高温登熟性試験



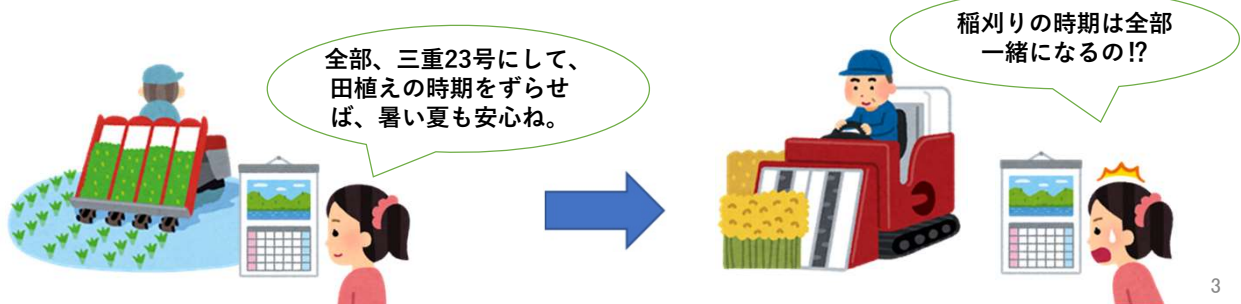
温室内の高い気温での稲の生育を確認する

米（夏の暑さに強い新しい米「結びの神」）

ヒアリング結果

【生産者】

- ・（三重23号はとても良い米だが、）栽培しているのは、コシヒカリ50%、あきたこまち25%、三重23号25%。
- ・同じ品種の米は、田植えの時期をずらしても、稲刈りの時期がほぼ同じになる。
- ・機械も人間も、一日にできる仕事の量は決まっている。
農家では、うまく作業が出来るように、いろいろな品種のお米を組み合わせ育てる。



3

米（夏の暑さに強い新しい米「結びの神」）

【利用者】「天むすの千寿」の社長

- ・天むすに使う米は、以前は、コシヒカリだった。いまは、基本「結びの神」で作っている。
- ・「結びの神」は、色が白くて粒が大きい。適度なもちり感があって、本当においしいお米だと思う。
- ・「結びの神」を作っている農家の方も天むすを買いに来てくれる。



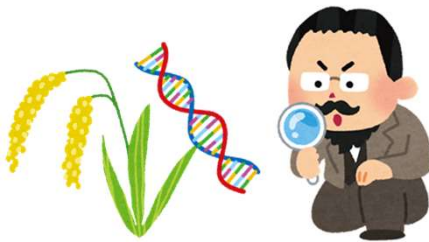
4

米（暑さ対策プラスいもち病対策「なついろ」）

ヒアリング結果

【三重県農業研究所】

- ・「三重23号」（結びの神）に続いて、高温だけでなく、いもち病にも強い新品種「なついろ」を開発した。
- ・農作物の品種改良には通常、10年かかる。
- ・イネゲノム（イネの遺伝情報）を参照することで、「なついろ」は6年で品種改良できた。
（遺伝子組み換え作物ではありません！）



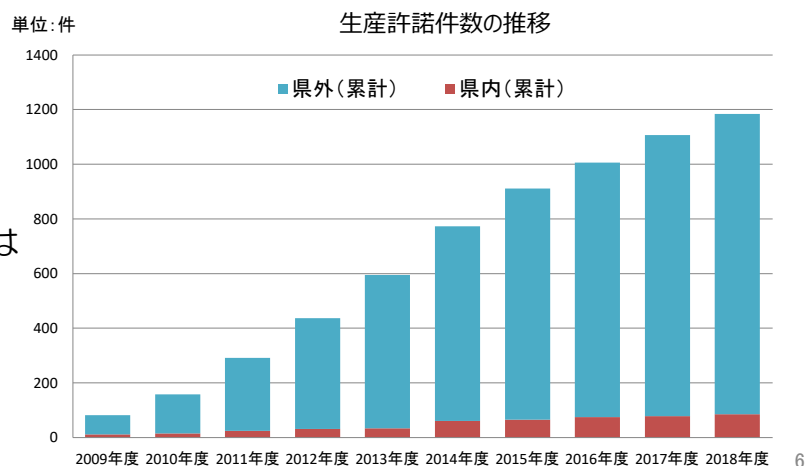
5

イチゴ（炭疽病に負けないイチゴ「かおり野」）

ヒアリング結果

【三重県農業研究所】

- ・夏季の高温化で、炭疽病発生リスクが高まっている。収穫時期が遅くなっている。
- ・炭疽病対策として、18年かけて新品種「かおり野」を開発した。
- ・「かおり野」の生産は全国に広がっている。



6

イチゴ（炭疽病に負けないイチゴ「かおり野」）

ヒアリング結果



【生産者】

- 炭疽病の影響は大きい。

2018年は炭疽病により別の品種（章姫）で苗不足が起こった。



- かおり野は炭疽病に強い。
需要があり価格も高い早い時期から収穫できる。
- 気候変動は、気温、雨、台風等様々な面でイチゴ栽培に影響がある。
気温上昇による害虫の増加、豪雨による炭疽病発生リスク拡大、台風によるハウスの倒壊が懸念される。

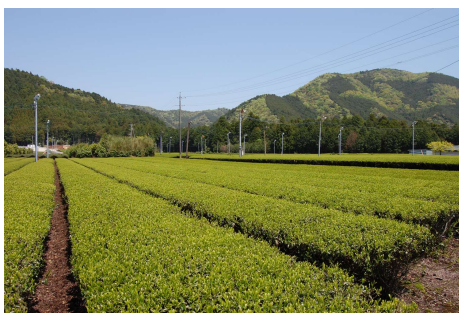
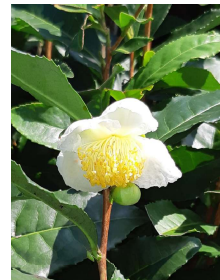
7

茶（お茶栽培の決め手は水）

ヒアリング結果

【生産者 / 三重県地球温暖化防止活動推進員】

- 新茶の摘み取り時期が早まっている。
- 秋の整枝の時期は遅くなっている。
- 茶の木が休む期間が短くなっており、理屈の上では、茶の品質が下がりそうだが、そのような話は聞かない。
- 夏の水不足で茶の木が枯れる恐れが強まっている。



左から、
茶摘み前の茶畑
秋の整枝後の茶畑

8